

3月29日 アンカラ～カッパドキア移動



散水状況：農地は国土の1/2  
…整備された河川や水路をあまり見かけなかった



羊の放牧



ソーラーパネル



トゥズ湖（80km×50km：トルコで2番目の大きさ、出口なし）  
深さ1～2mの塩湖（湖中央付近で採掘、国内消費の70%を供給）  
死海より塩分濃度が高い。



幹線道路とサービスエリア



### 【カイマクルの地下都市：世界遺産】…カッパドキア

…内部には教会、学校、ワイナリーなどが作られ、2000人（2万人説も？）が暮らした…。8階建て（下位ほど広い）で、各階は階段や傾斜した通路でつながれている。隣接する地下都市のとの通路も確認されている。ローマ帝国の迫害を逃れてこの地に辿り着いた初期キリスト教徒たちが隠れ住み、紀元前から何世紀もかかって掘り進められてきた（webに加筆）。



侵入を防ぐための、石（円形）の引き戸

敵の侵入を防ぐため、狭く、かつ迷路状・・・



見学は地上から数階下まで・・・

水は最下層付近で確保。煙やトイレの処理方法など不明。単なる、冬の寒さ（氷点下  $5^{\circ}$  ～  $10^{\circ}$  ）をしのぐための施設かも・・・牛や馬が飼われていたとの説明（web）もあるが、上層階では閉所恐怖症に陥るような空間が多く、不可能？  
下層階にあるとしても、どのようにして搬入したのか？



排気孔（深さ 40m の四角い縦穴）・・・掘削方法？  
掘削精度等、ここでも古代人の技術力に敬服！  
・・・食料の搬入口等として利用されたとも



絨毯（商品）が雨ざらしになっており、不思議に思われたが、そのような柔な品物ではないようである（ノープロブレム）



老朽化した石像建築物・・・間詰め材や表層部の剥離。  
・・・縦キレツは地震による？

【ギョレメの野外博物館】・・・カッパドキア



キリスト教徒がイスラム教徒の圧迫から逃れるため、洞窟（凝灰岩）を掘り、教会や修道院を造ったといわれている・・・

むしろ寒さ対策などから始まった施設を利用したようにも・・・ 世界遺産



入口（秘密？）がわからない・・・



格子状の枠は鳩の巣（・・・糞を肥料に利用）

鳩が群がる岩・・・塩分でもあるのかも．節理に沿った剥離も進行し，所々補強がなされている．



内部の調理場



同左，食堂



【バシャバー地区のキノコ岩】



【鳩の谷～ローズバレー】



左上の尖った山は城塞



魔除けの石（トルコ定番）を取り付けたもの  
・・・日本のおみくじに似た風習



ローズバレー



ローズバレー周辺の地形・・・陥没しているように見える

【洞窟住まいの民家】

売店近くの民家を訪問させて頂きました。



女性の後は絨毯の織機（嫁入り道具）  
・・・現在製作中



町中に飾ってあった小さな織機



床には何枚も敷き詰めてあった



山の斜面に築いており、住居裏から地下におりるように入った

【ギョレメの町中】





洞窟住居を築くための前段階（玄関口の基礎工事）？



河川・・・平常時の流水はない



カッパドキア地方には陶器やワイン（Turasan ワイン：日本でも受賞）、絨毯、トルコ石、皮革製品の工房が・・・ 皮革製品の工房では初のファッションショーを見させてもらったが、いずれも値のはるものばかり



煙突（円内：排気孔）の下（地下）は、ジャガイモ貯蔵庫



棚のないブドウ畑（地中海側では棚を造る）

【洞窟ホテル】・・・ギョレメ地区



宿泊したホテル（3階建？）の正面  
それぞれの階で、裏山をくり抜いて洞窟部屋を構築



隣の洞窟ホテル



部屋の入り口



暖房の温もりが、夕方帰宅時にも感じられる程、保温性がよい



洞窟ホテルからの風景・・・4月の雪